

日本英語教育史学会 会報

265

2014 年 10 月 23 日

HiSET *Society for Historical Studies of English Teaching in Japan*

日本学術会議協力学術研究団体 **日本英語教育史学会**

学会ウェブサイト <http://hiset.jp/>

日本英語教育史学会 (代表 江利川 春雄)

【事務局】和誠堂文庫

〒121-0011

東京都足立区中央本町 5-10-22

e-mail: membership@hiset.jp

口座 (名義) 日本英語教育史学会

ゆうちょ銀行: 00150-3-132873

三菱東京 UFJ 銀行 千住中央支店

(普通) 0997182

第249回研究例会報告

2014 (平成26) 年 9月21日 (日)、県立広島大学のサテライトキャンパスひろしま (広島市中区大手町) において、第249回研究例会が開催されました。研究発表は2本行われ、1つ目が青田庄真氏 (東京大学大学院生) の「戦後日本の教育関連議論における英語教育: 国会会議録を主な素材として」、2つ目が馬本勉氏 (県立広島大学) の「関係代名詞の訳出法: その変遷をめぐって」でした。司会は竹中龍範氏 (香川大学) でした (出席者13名)。以下に出席者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は青田氏、②は馬本氏のご発表への感想です)。

◇ ◇ ◇

◆①国会会議録を統計的に分析し英語教育に関する議論の動向を明らかにするという斬新な手法が大変興味深かったです。今後の研究の発展を期待しています。 <匿名希望>

◆①まず、研究方法のデータの膨大さに圧倒されました。特に量的研究におけるコンピュータの存在の大きさに対してあらためて認識を新たにしました。議会の議論の中の用語を量的に分析することによってその時代の関心が分かると思いますが、その関心の高さの要因も考えていかなければと感じました。私も昔少し県レベルですが教育行政を経験しましたが、議員さんの関心は、教育問題でもその問題を取り上げることによる教育問題以外の観点 (例えば選挙区、業界等支持団体) もあるのではと感じることがあったので、そのあたりのことも含めると興味深い結果が得られるのではないのでしょうか。 <JH4DGW>

◆①新しい切り口によるご発表で、中間発表ということでしたが、今後の展開を楽しみにしております。ただ、数値データに対し、例えば山の内容が明らかにされないと、英語をめぐる議事が多い、少ないというだけでその内容は分からないということになりますので、その部分を関連づけ乍らの分析が必要かと思います。

<Dragon>

◆①莫大な量のデーターを分析するための最先端のハイレベルな情報処理技術に驚きました。また、それに費やされた時間と労力、本当にお疲れ様でした。そのデーターから「理科教育」と「英語教育」との比較を論じられましたが、それらは表面的なことのような気がします。貴重なデーターから読み取れるもっと深いものが明らかになればと思いました。とてもさわやかなご発表をありがとうございます。

<Rainbow>

発表を終えて①

戦後日本の教育関連議論における英語教育： 国会会議録を主な素材として

青田 庄真 氏 (東京大学大学院生)

この度は、5月の大会、7月の例会に引き続き3回連続で私のお聞き苦しい発表にお付き合いいただき、また、多数の示唆的なご指導を賜り誠にありがとうございました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

発表では、戦後英語教育の政策過程を明らかにするため、経時的な分析および理科教育との比較による相対化を試みました。英語教育史学会では、例会での持ち時間が長いことにも助けられ、他では頂けない大変鋭いご指摘を本当に沢山頂戴致しました。なかでも、筆者の未熟さ故に中途半端に多くのものに手を出してしまった点に反省し、如何にして本研究を英語教育史研究の文脈に位置づけることができるかを模索していきたく存じます。私を学部時代から絶え間なく成長させて下さっている英語教育史学会にいつか学問的に貢献することが出来ますよう日々精進していく所存でございます。今後とも厳しくご指導ご鞭撻下さいますよう、お願い申し上げます。

また、私はまだまだ発展途上の身でありますので、当日広島においてになれなかった先生方にも今後ともご指導を頂きたく存じます。その意味でも、当日の発表資料は以下の URL に置いておりますので、お手すきの折にご高覧頂けると誠に幸いです。

<http://www.slideshare.net/blueden/2014921slideshare>



◆①研究発表タイトルで予想していた発表内容と実際のご発表が少し異なっていたのは残念でした。理科教育に係る分析手法ならびにその結果の紹介は簡略化し、英語教育に的を絞った鋭い解析を聴かせてほしかった。またの機会によろしく願います。

<もみじまんじゅう>

◆①コンピュータを駆使した先端的な研究方法で国会議事録を精査された方法論に感動しました。(1)発言の典型的な事例を紹介いただき、(2)政策決定にどう影響したのか否かを考察され、(3)中教審や教育課程審議会などの議事録の分析へと進めば、さらに面白い研究になると思います。

<みかん舟>

◆①議論の痕をコーパス分析の手法で明らかにしようとする試みが大変興味深い。政策決定に至るデータの動きのパターンを見出すことができれば、今後の英語教育政策を占う指標になりうるのではないかと感じる。今後に期待したい。

<Horse>

◆①フロアからもありましたように、国会議事録に焦点を絞っていくと、違った角度からの英語教育が見えてくると思います。

<Kshyu>

◆②明日の授業にもつながる大変示唆的なご発表でした。正則・変則について、日本における英語学習の「本質」に通じる議論が大変刺激的でした。

発表を終えて②

関係代名詞の訳出法：その変遷をめぐって

馬本 勉 氏 (県立広島大学)

本発表では、訳読の変遷を明らかにする研究の一環として、明治期の独習書に見られる関係代名詞の訳の変化を取り上げた。綴字書 (ウェブスター)、読本 (ウィルソン第 1、ナショナル第 2・第 3)、万国史 (パーレー)、英文典 (ピネラ、カッケンボス、ネスフィールド、スウィントン) から関係代名詞の使用例を引き、訳出パターンを分析した。

1) 明治 20 年前後に数多く出版された「独案内」「直訳」において、3つの訳出パターン(「漢文の再読文字のように二度にわたって訳出」「関係代名詞とともに先行詞も再読して訳出」「再読なし」)が見られる。いずれも「ところの」という訳語が用いられる。

2) 明治期後半から発行される「講義」においては、関係代名詞は訳されない(非制限用法のみ「それは」と訳され、「ところの」は用いられない)。

明治期の独習書における形態の変化は、訳文の質的な変化を伴う。その一例が関係代名詞再読の消滅であり、こなれた日本語訳につながる。しかし、再読の果たした英語指導上の意義も検討する余地がある。

(質疑応答では貴重なご助言を多数頂戴しました。厚くお礼申し上げます。)



◆②変則英語の代表例のように言われる関係代名詞の「～する処の」という訳し方がどのように変遷したかを豊富な資料によって裏付けて頂きました。併せて最後の『「ところの」考』を興味深くうかがいました。論文として纏めて頂くことを楽しみにしております。なお、関係代名詞の制限用法、非制限用法の間に訳し分けがあったのかも明らかにして頂ければと思います。

<Dragon>

◆②独案内などの独習書の変遷から、訳読法、さらには英語学習法の進化が見えて面白く拝聴しました。1910 年代以降に関心・研究が高まる直読直解法やグループ・メソッドで関係代名詞の扱い方がどう変化したか(たとえば「～そしてそれは…」など)まで、ぜひ研究を進めてください。

<みかん舟>

◆②「直訳」「独案内」「講義」の実物を見せていただきありがとうございました。私はこれまで「スペリングブック」を単なる「ペンマンシップ」のようなアルファベットや単語の綴りの練習帳と誤解していました。実物を見て発音も含めた入門書であることを知りました。実物を手に取ることができるのは本当に貴重な経験だと思います。また、今回の発表のテーマである関係代名詞の訳し方については、私自身が今でも教壇で迷いを感じているので興味深くうかがいました。

<匿名希望>

◆②関係代名詞の訳出法の変遷から英語教育文法指導、読解指導の変遷がうかがえて、興味ある研究発表でした。

<Kshyu>

◆②今日の日本の高校生が英語嫌いになる文法カテゴリーのご三家(?)、関係代名詞、仮定法、分詞構文のうちから、関係代名詞に焦点を当てたご発表で大いに勉強させていただきました。「・・・ところの」を用いて学習者に関係代名詞を理解させようとした先人の工夫がこんなに古くからなされていたことを知り驚きました。貴重なご研究、ありがとうございます。

<もみじまんじゅう>

◆②明治期の独案内の専門的研究をされている馬本先生ならでのご発表だったと思います。過日先生の大学の研究室を訪れる機会に恵まれましたが、その蔵書の膨大さに本当に驚きました。これらの資料を駆使されて、日本語にない特殊な品詞である関係代名詞の訳し方を通して日本人がいかに英語を理解しようとしていたかを示され、とても参考になりました。近

年、コミュニケーションばかりで、「英語の授業は英語で」が流行ですが、英語科教育では外国語を通じて母国語をよりよく理解することも重要だと思っています。その意味でもこのような研究を地道に行っていく必要があると確信しています。

<JH4DGW>

◆②中学生の頃から関係代名詞を場所でもないのに「～のところの・・・」と訳すのをとても奇妙に思っていました。にもかかわらず自分が教える立場になった今、やはり、「～のところの・・・」と説明しています。「～のところの・・・」と訳さない時期もあったというのはとても新鮮です。改めて、関係代名詞の訳読について意識してみたいと思います。膨大な量の資料を地道に整理、分析されるお姿に感動しました。ありがとうございました。

<Rainbow>

>> 事務局より

会員のみなさまには、会費の納入にご協力いただきありがとうございます。未納の方へのご案内は順次お届けいたしますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

なお、ご不明の点は、お手数ですが事務局(会計担当)までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

問い合わせ先：事務局(会計担当) 河村和也

電子メール：membership@hiset.jp 携帯電話：090-3437-1703

>> 『日本英語教育史研究』第30号 投稿締切 迫る

会報264号でお知らせしております通り、研究紀要『日本英語教育史研究』第30号への投稿締切が近づいて参りました。締切は10月31日(金)(必着)ですので、ご投稿予定の方はご注意ください。送付要領は次の通りです。

①送付先：〒331-0825 埼玉県さいたま市北区榎引町2-176-4 佐藤 恵一

②提出方法：原稿は、執筆者名を明記したもの1部と執筆者名を伏せたもの2部を上記送付先に郵送してください。また、受領連絡用に宛て先を明記した葉書を1枚同封して下さい。

- ・刊行は来年5月の予定です。
- ・会報264号に掲載の投稿規程、および標準書式をご参照ください。

≫ 論文投稿の前にご確認を

学会誌『日本英語教育史研究』に論文の投稿を予定されているみなさまにお願いいたします。会報264号掲載の「投稿規程」および「投稿論文標準書式」に基づいて原稿を準備されていることと思いますが、特に以下の点にご留意ください。

◎ 完成ページで20ページ以内が原則です

投稿規程 4. 投稿論文の分量は、キーワード、英文アブストラクト、図表等を含めて『日本英語教育史研究』の完成ページ(38字×28行)で20ページ以内とする。これを超過することが認められることもあるが、その場合も30ページを超えることはできない。また、20ページを超える場合には、分量に応じて別途、印刷経費を自己負担するものとする。

なお、「標準書式」では文字の大きさ・1ページの行数・1行の文字数・使用フォント・句読点の打ち方なども詳しく定めてあります。今一度ご確認ください。

また、最初のページは、①論文題目、②論文題目の英訳または和訳、③執筆者名とそのローマ字表記(例 ERIKAWA, Haruo)、④日本語または英語のキーワード3語、⑤100~150語の英文アブストラクト、⑥本文の順となりますので、漏れのないようご注意ください。

◎ コピーと受領確認用の葉書をお忘れなく

投稿規程 5. 投稿論文の提出は、原則として、ワープロ、パソコンによる打ち出し原稿を正副3部提出するものとし、正本1部には著者名を明記し、副本2部には著者名を伏せるものとする。

提出は郵送もしくは託送によるものとし、原稿とあわせ、受領確認用の宛て先明記の葉書を1枚同封したうえ、締切り日までに必着することが求められる。

著者名が必要なのは正本1部のみです。副本には著者名が入らぬよう、プリントアウトもしくはコピーの際にご配慮ください。

また、提出原稿にはページを付していただきます。手書きでもかまいませんので、お忘れなくお願いいたします。

◎ インターネット上での公開が前提となります

投稿規程 11. 掲載された論文等の著作権は著者に帰属するが、著作権のうち複製権および公衆送信権の行使については日本英語教育史学会に委託される。

現在、J-STAGEで公開されているのは第23号までに掲載された論考ですが、今後その範囲は拡大される予定です。インターネット上で論文が公開されることについては、投稿の段階でご承諾いただいていることとなりますので、くれぐれもご注意ください。

≫ 学会創立 30 周年記念例会について

既報の通り、会の創立 30 周年を記念して以下の通り「記念例会」を開催します。多数のご参加をお待ちいたします。

シンポジウム：日本英語教育史学会 30 周年記念「回顧と今後への期待」

パネリスト 小篠 敏明 (元会長・福山平成大学教授)
 島岡 丘 (筑波大学名誉教授 [シニア・プロフェッサー])
 茂住 實男 (拓殖大学名誉教授)
 コーディネータ 竹中 龍範 (前会長・香川大学教授)

期 日：2015 年 1 月 11 日(日)

会 場：拓殖大学文京キャンパス 国際教育会館〔F 館〕(地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅下車)

○例会終了後、茗荷谷駅周辺で 30 周年祝賀会を開催します。詳細は追ってご案内しますが、今のうちからご予約ください。

≫ 懐かしいもの、ありがとうございます ～引き続きのご協力をお願いいたします～

創立 30 周年を記念する「小さな小さな《資料展》」について前号でお知らせしたところ、さっそく「懐かしいもの」のご提供をお申し出いただきありがとうございます。

引き続き、会員のみなさまから以下のような「懐かしいもの」をお貸しいただきたく存じております。資料は厳重に管理しお返しいたしますので、ご協力のほどをお願いいたします。

- 全国大会・月例研究会(現在の研究例会)の記念写真やスナップ写真
- 月報(現在の会報)
- その他の通信や文書類

ご協力願える方は以下にご一報いただければ幸いです。どうぞよろしくをお願いいたします。

宛先：河村和也(個人の住所・メールアドレスにつき、事務局のものとは異なります)
 《郵便》〒212-0054 神奈川県川崎市幸区小倉 1-6-10-305
 《電子メール》rivervil@d3.dion.ne.jp

≫ 新入会員

末澤奈津子(すえざわなつこ) 大阪府 【所属】関西大学(非常勤)・神戸大学大学院生

≫ 今後の研究例会の開催予定

- ◆第 250 回 2014 年 11 月 16 日(日) 開催地：東京都(※詳細は本会報最終ページ)
- ◆第 251 回 2015 年 1 月 11 日(日) 開催地：東京都
- ◆第 252 回 2015 年 3 月 15 日(日) 開催地：大阪市

発表を希望する会員は (1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上 4 点を明記の上、発表希望月の前々月 10 日 (来年 1 月発表希望であれば 11 月 10 日) までに、日本英語教育史学会例会担当 (保坂芳男) までお申し込みください。

Email: yhosaka@ner.takushoku-u.ac.jp TEL&FAX: 042-665-3225 (拓殖大学・保坂研究室)

EDITOR'S BOX 実は私は駅伝が大好きで、駅伝観戦が趣味の一つなのですが、今年は学生三大駅伝の一つである出雲駅伝が、26 年目にして初めて中止になってしまいました。台風の影響で安全が確保できないことが理由だったのですが、本当に残念でした。もう一つの趣味である登山 (といっても年一回程度ですが) についても、御嶽山の噴火などの影響で、何となく山に登るのが不安に感じてしまいます。(若)

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室)

第 250 回 研究例会のご案内

日 時： 2014 年 11 月 16 日 (日) 午後 2 時~5 時
会 場： 拓殖大学文京キャンパス国際教育会館 (F 館) (東京都文京区大塚 1-7-1)
3 階 F301 号室

研究発表①

「東京高等師範学校文科兼修体操専修科のこと」

竹中 龍範 氏 (香川大学)

旧学制下に東京高等師範学校体操専修科が体操教員の養成を担う中心的機関であったことは言うまでもない。明治 19 年 4 月、旧来の附属体操伝習所を廃して体操専修科を置いて、以後纏綿として体操教員養成に当り、戦後の東京教育大学体育学部を経て、今日の筑波大学体育専門学群に至っている。この東京高師体操専修科において、体操のみならず、修身、若しくは文科科目を兼修せしめた時期があった。

このうち文科兼修は、主専修の体操に加えて国語・漢文または英語または地理・歴史のいずれかを兼修させるもので、都合 4 回開設された。その経緯は、

従来の体操は、主として生徒の身体のみに関係し、体操を通して精神教育をなすが如きは到底望むべくもなく、加之体操教師としての学力程度が低かったので、生徒からも社会からも幾分軽視される状態にあつたのを遺憾とし体操を通して精神教育をもなし、且精神教育を体育運動を通して価値あらしめる意味を以て、まづ体操科に修身を兼修せしめ [明治 35 年 9 月]、更に国語・漢文又は英語又は地理・歴史の一つを兼修せしめた [明治 39 年 4 月] ものである。修業年限は 3 箇年 [第 2 回設置分より 4 ヶ年] に延長せられた

と、東京文理科大學『創立六十年 東京文理科大學・東京高等師範学校』(昭和 6) に記されるとおりである。

本発表では、この文科兼修体操専修科のうち英語兼修の課程について、そのカリキュラムを明らかにするとともに、学生によるレポートと思われる報告書を分析して、限られた調査範囲のものであるが、その内容を明らかにしたい。

研究発表②

「資料紹介 修猷館高校所蔵の戦前期英語教科書選定資料について」

安部 規子 氏 (久留米工業高等専門学校)

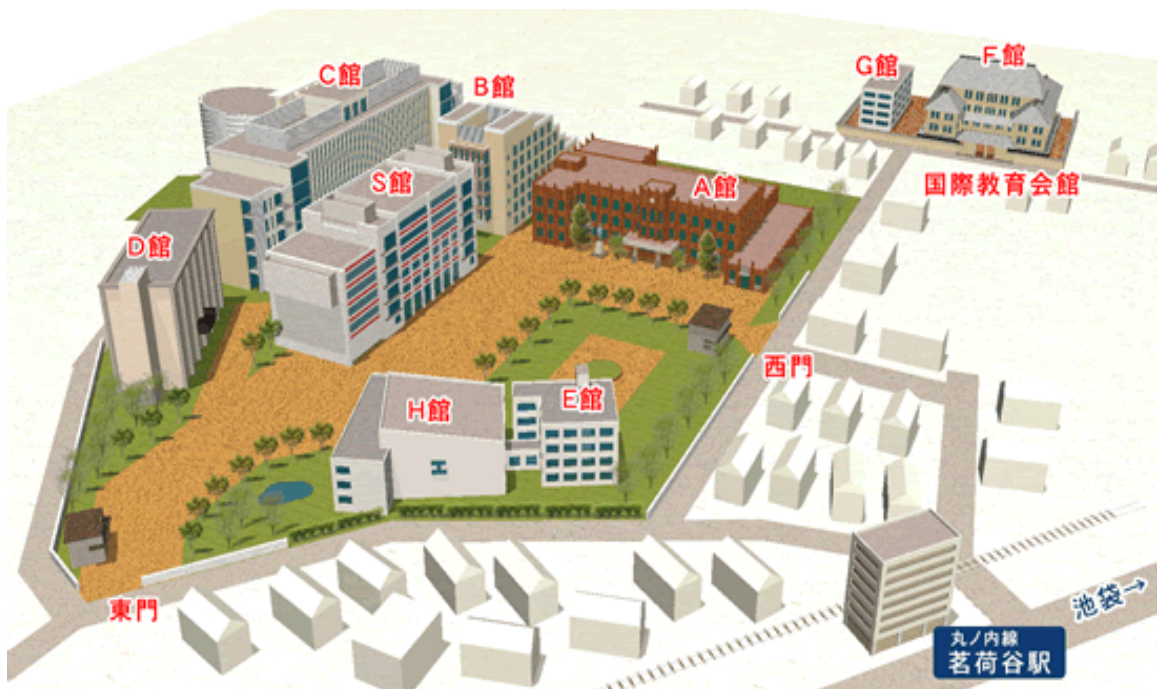
今回紹介する福岡県立修猷館高校所蔵資料は、明治 40 年代から昭和 2 年までの「普通会議録」に記された知事宛ての教科用図書変更申請書の控えである。そこに記された新旧教科書名と変更の理由から、当時使用されていた教科書が特定され、また現場教師がそれらの教科書に対してどのような感想を持ったか、さらには彼らが求めるよい教科書とはどのようなものであったかが読み取れる。

参加費： 無料

問合先： 保坂 芳男 (メール: yhosaka@ner.takushoku-u.ac.jp TEL/FAX: 042-665-3225)

★会員外の方の研究例会へのご参加を大いに歓迎いたします。

【会場案内】



(拓殖大学ウェブサイトより)

【交通案内】 東京メトロ丸ノ内線 茗荷谷駅下車 徒歩 5 分

都営バス【都 02】系統茗荷谷駅前 (拓殖大学前) 下車 徒歩 5 分